

(文部科学省) 全体ヒアリング概要

日時：平成21年11月5日(木) 14:45～15:15

場所：合同庁舎4号館4階第4特別会議室

聴取者：有識者議員 相澤議員、本席議員、奥村議員、白石議員、青木議員
内閣府 藤田政策統括官、梶田審議官、岩瀬審議官、大江田審議官、
須藤参事官、更田企画官

説明者：文部科学省 泉科学技術・学術政策局長、森本大臣官房審議官(研究開発局
担当)

【相澤議員】

昨年度予算額とほぼ同額レベルの要求を維持したということだが、文部科学省の中で、科学技術関係予算は相対的に厳しい状況にあったのか。

【文部科学省】

マニフェストや工程表に科学技術の項目が無い状況の中でこういう姿になった。グリーンイノベーションの推進や基礎科学力については、資源配分方針にも示されているところであるが、政務3役の言葉を借りれば、マニフェストに本来は載せてもいいような、載せたかったものであるが現実には載っていないという状態であり、そういう中で予算をきちんと確保して行かなくてはいけないということで、厳しい中でも前年度比で若干プラスの要求となっている。

【相澤議員】

結果的にグリーンイノベーションにシフトが行われたように見えるが、8月以降、何がどう変わったのか。

【文部科学省】

グリーンイノベーションを目指した研究開発として、緩和戦略、適応戦略、フィールド実証を中心として予算要求を組換えた。JSTに低炭素研究推進センター(仮称)を設立する準備を進めているなど、新たなブレイクスルーを生み、科学的な知見を活用することによって、CO2の削減につなげたい。

【相澤議員】

8月の要求時には含まれていなかった、グリーンイノベーションの新規事項はないのか。

【文部科学省】

25%削減を達成するためには、今までのやり方ではうまくいかないのでは中味を見直した。革新的技術の寄与分を加速していかなければならない。より革新的技術をクローズアップしていく必要がある。

【相澤議員】

施策名は変わらないが、中味を見直したということか。

【文部科学省】

そのとおり。

【本席議員】

基礎科学力の予算は微増しているが、その中味として、スパコンの増額が大きい。スパコンは基礎科学力強化として適切なかどうかということもある。

【文部科学省】

基礎科学力強化として、科研費、基盤研究の充実を要求している。スパコンについては、計画遂行に必要な金額を確保するもの。全般的に基礎科学力の強化として整理しているが、政務3役のご判断の下にこのような形で要求させて頂いている。

【本席議員】

スパコンの増額は計画どおりの進行による増額であり、マニフェスト関連のものではないということか。

【文部科学省】

マニフェストに明確に位置付けられるものではない。マニフェストにある「研究力を強化して科学技術力で世界をリード」するものとして増額を図っている。スパコンについては、計画を遂行するために、22年度から製造段階に入るので増額を図っている。

【奥村議員】

将来を支える科学技術人材の確保に関して、学術分野で活躍される研究者だけではなく、産業界で働く技術者・研究者のための施策が重要ではないか。

【文部科学省】

ここに記載しているのは、額の大きいものを中心に並べている。ご指摘のとおり、学術分野で活躍される研究者を意識した施策が多いが、学位をとった人が産業界を含めた色々なところで活躍できるようにするような施策も含まれている。

【白石議員】

文部科学省の独自資料のグリーンイノベーション施策と、様式4-1に記載されている施策とやや異なるが、どういう整理をしているのか。

【文部科学省】

様式4-1にはグリーンイノベーションに若干関係あるものは全て入っており、他の重点的に推進すべき分野と重複計上しているものもある。独自資料では、重複しないように整理している。

【奥村議員】

今回の予算要求で盛り込めなかったような個別施策はあるか。

【文部科学省】

地域イノベーションクラスター創成事業では、グローバル拠点育成型をやめるなどしている。

以上